

# 1 1 研究実践

## 視点1：自分なりの考えをもたせる自力解決の工夫

手立て①既習事項の振り返らせ方や見通しのもたせ方を工夫する。



### 具体的な取組

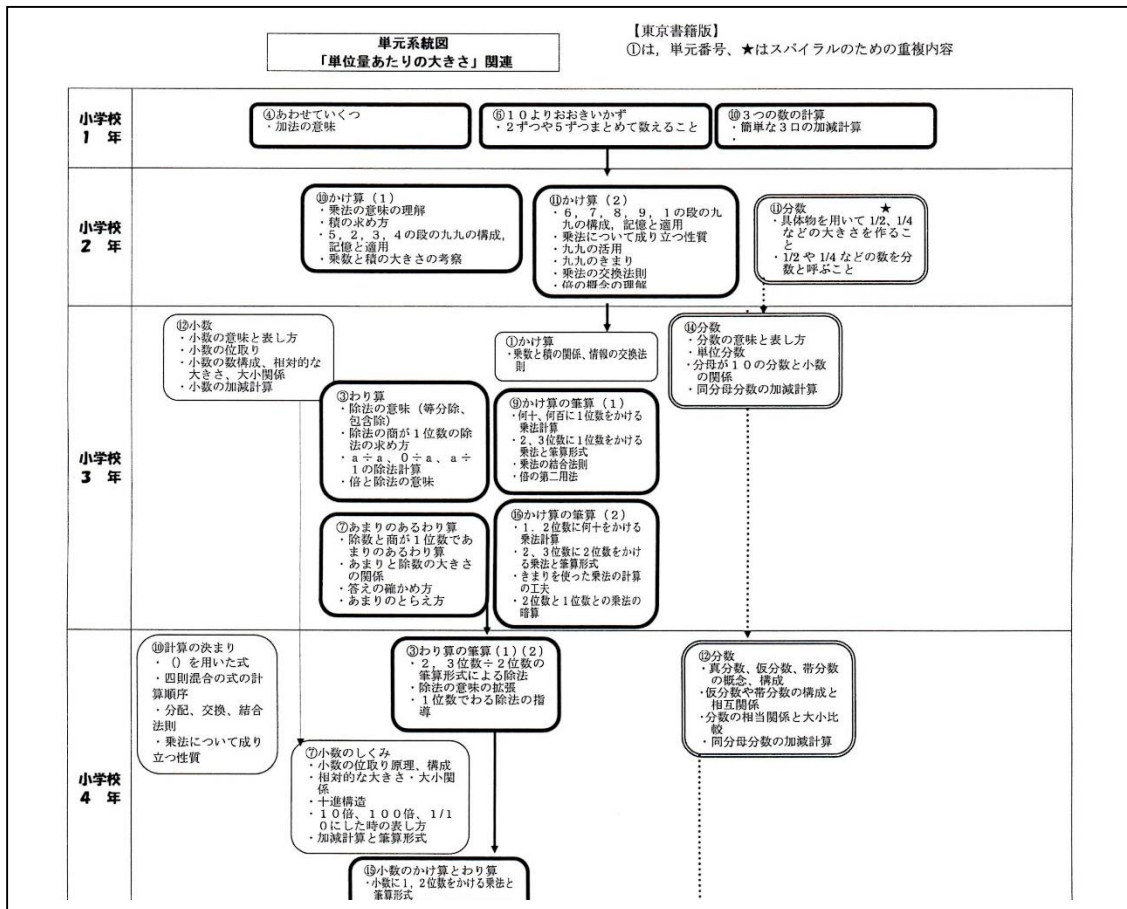
#### (1) 事前の既習事項の振り返り

##### ①既習事項の確認

単元系統図を作成し、学年や領域の枠を超えて、新しい単元の学習内容にかかわる既習事項を洗い出した。研究授業の事前検討会の際には、研修を兼ねて、全職員で単元の系統についての確認を行った。

また、日常の指導の中では、他学年の教科書にも目を通し、前学年までにどのような学習をしてきたのか、今後どのような学習に発展していくのかを確認してきた。

【5年「平均」の研究授業の際に活用した単元系統図（一部抜粋）】



## ②既習事項の振り返り

新しい単元に入る前に、家庭学習などを用いて、既習事項の振り返りを計画的に行った。単元の学習に向けて既習事項をしっかりと想起させておくとともに、既習事項でつまずくことがないように、練習問題などにも繰り返し取り組ませた。

また、学習内容だけでなく、既習の図（線分図や数直線図）についても振り返らせた。

単元によっては、単元の導入時に既習事項を振り返る時間を1時間設定し、年間指導計画に位置付けた。

## (2) 授業における見通しのもたせ方

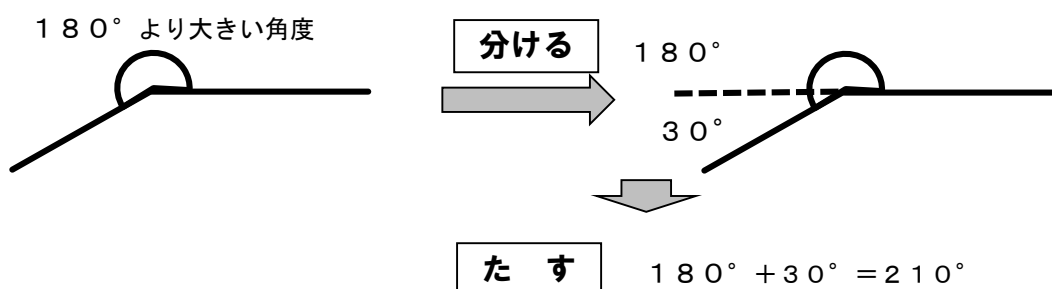
### ①見通しをもたせる際の手掛かり

見通しをもたせる際、既習の学習内容だけでなく、「分ける」「たす」「あるとみてひく」「～を1とみる」などの既習の見方・考え方も振り返らせた。これらの見方・考え方は、単元や学年を超えて用いることができる。このような見方・考え方をを用いて本時の学習内容と既習の学習内容を結び付け、解決の見通しをもたせた。

### 既習の見方・考え方をを用いた見通し具体例

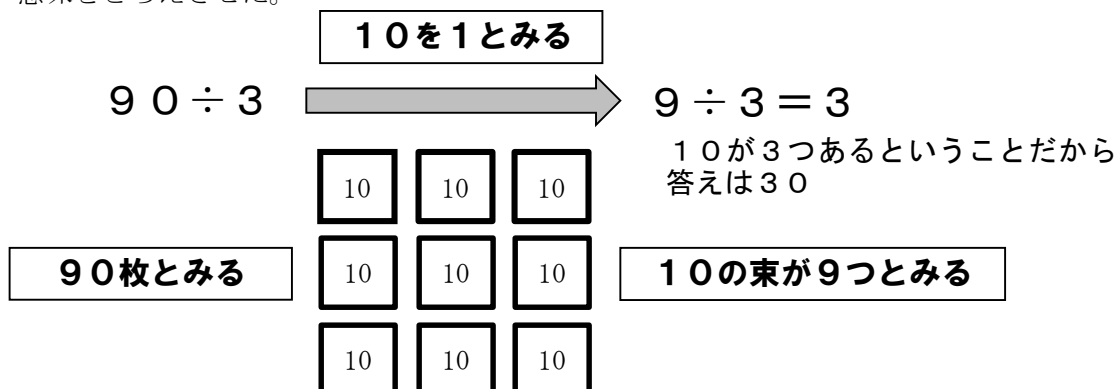
#### 【4年「角の大きさ」の実践例】

180°より大きい角度の測り方を考えさせる際、2年、3年の学習で用いた「分ける」「たす」という見方・考え方を手掛かりにして考えさせた。



#### 【3年「大きい数のわり算」の実践例】

既習の「大きい数のしくみ」の学習で用いた「～を1とみる」という考え方をを用いて、何十÷何の計算の仕方を考えさせた。また、図とも関連付けて「～を1とみる」ことの意味をとらえさせた。

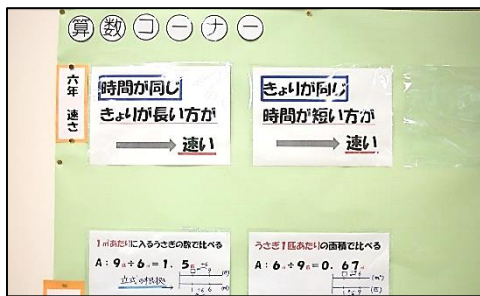


## ②見通しをもたせる際の具体的方法

### a) 算数コーナーの活用

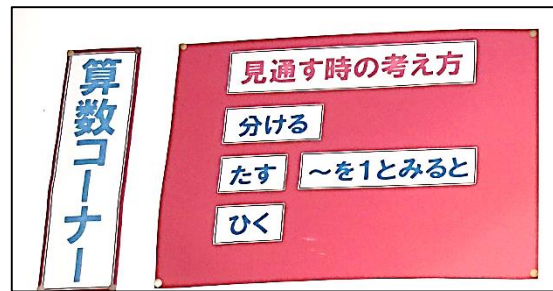
本単元の学習にかかわる既習事項や、前時までの学習内容、既習の見方・考え方などを算数コーナーに掲示しておき、それを手掛かりにして見通しをもたせた。

既習の学習内容についての算数コーナー



6年「速さ」の学習での算数コーナー

既習の見方・考え方についての算数コーナー



3年教室の算数コーナー

「考え方」の種類は、学習が進むにつれて増やしていく。

### b) 児童の発想を生かした「～作戦」の活用

問題の解決方法に、そのとき用いた考え方にちなんだ名前を付けた。その際、児童の発想を生かして「～作戦」と名付けることによって、児童がその後の学習でも既習の考え方をスムーズに想起できるようにした。また、どの学年でどのような作戦を用いたか事前に把握しておくことによって、学年を超えて同じ作戦を用いることができた。

#### 【3年「九九を見なおそう」の実践例】

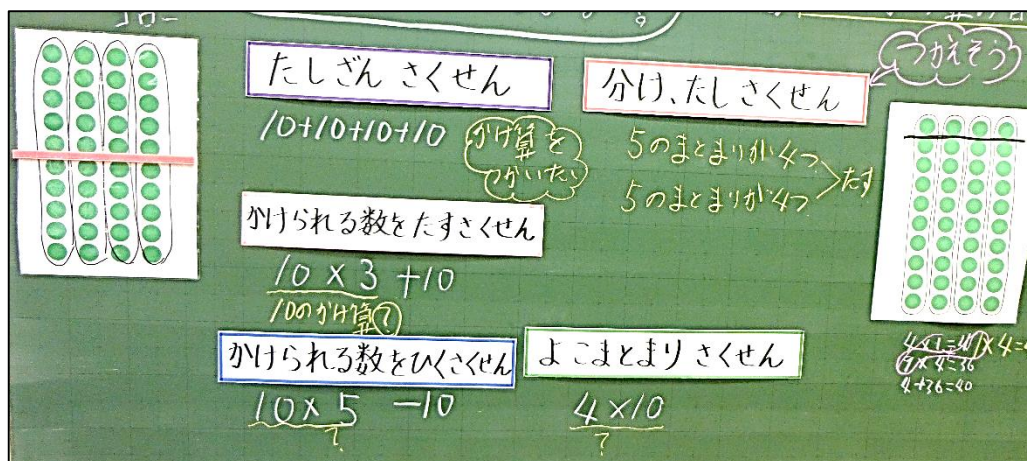
2学年のかけ算の学習で用いた作戦を想起させ、その作戦を用いて未習の $10 \times 4$ の答えの求め方を考えさせた。

C 「たし算作戦」を使えば $10 \times 4$ の答えは求められる。

T かけ算を使う作戦は使えないかな？

C 「かけられる数をたす作戦」だと $10 \times 3 + 10$ になるから、九九が使えない。

C 「分け、たし作戦」を使えば、5のまとまりが4つと5のまとまりが4つになるから、九九を使って答えを出せる。

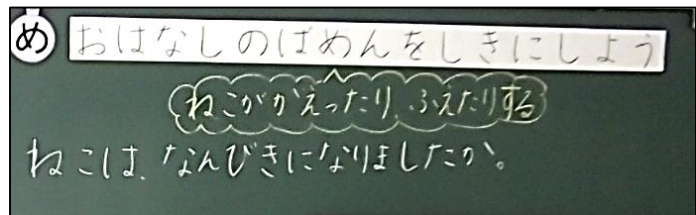
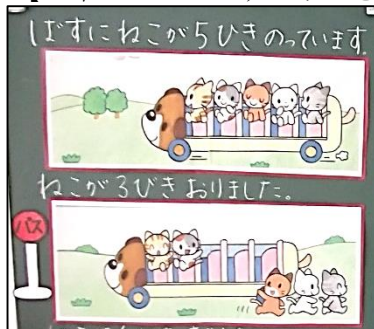


児童から出てきた作戦について全体で吟味し、「分け、たし作戦」が使いそうだという見通しを全体で共有した。

### c) 同じパターンの導入

問題場面を同じにしたり，同じような学習課題を示したりすることによって，前時までの学習との違いに気付けるようにした。

【1年「3つのかずのけいさん」の実践例】



「おはなしのぼめんをしきにしよう」という毎時間共通の課題に、「ねこがかえったり、ふえたりする」という本時のキーワードを加えた。

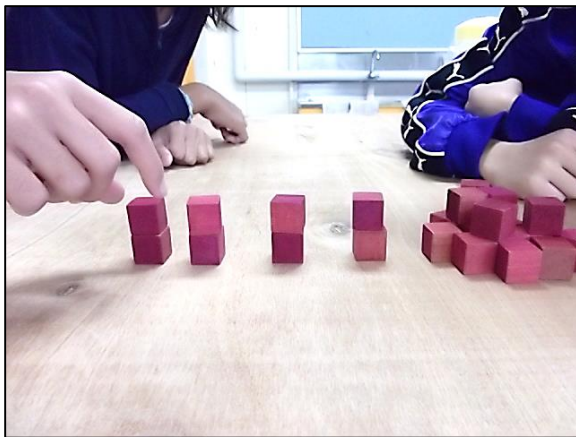
共通の問題場面を設定し，毎回，問題場面のお話づくりをして，前時までの問題場面との違いをとらえさせた。

### d) 体験的活動の活用

単元の導入時に体験的活動を行うことにより，新しい学習内容についてのイメージや解決の道筋の見通しをもたせた。

【5年「平均」の実践例】

単元の導入で，積み木やジュースを実際に操作してならず活動を行った。次時の計算で平均を求める学習をする際，課題把握や見通しをもたせる場面，自力解決の場面などで，前時の体験的な活動を振り返らせた。



積み木を用いて高さをならす活動を行った。



ジュースを一度全部合わせてから同じ量に分けた。児童は「トランプ配り」と名付けた。